

木に登った豚



社会福祉法人米山寮

理事長 島津 達雄 氏

私は、社会福祉法人米山寮の理事長をしている。その方面には門外漢である。しかし、優秀な幹部や職員に恵まれ、お陰さまで、大過なく業務を遂行している。もちろん教育についても素人ではあるが、自分の受けた教育について語ることはできる。

私は岡崎生まれである。私は戦争を知らない子どもである。小中高と岡崎市内で教育を受けたが、正直なところ、私が強く影響を受けたのは、城北中での教育である。

私たちは戦後のベビーブームで、連尺小では、体育館を教室とし、竜海中に入学したときは、一クラス五十五名、十三クラスであった。二年生の時、城北中が新設され、昭和三十六年十二月に新校舎に移る。当時の生徒手帳には「生徒のきまり」

がある。通学・容儀・礼儀・授業・勉強等こと細かに定められ、最後に、「最善の努力をして社会に奉仕しなす」で終わっている。

実力試験は学年全員の順位が貼り出され、男子の頭髪は坊主頭、女子はおかつぱとされた。部活動全員参加、常時制服、夜間に担任が生徒宅を訪問・家庭学習見回り・することもある。後年、三河管理教育と言われ、批判はされたが、その評価は、人それぞれであり、私はそうとは思わない。私には、とてもありがたかった。校長室に行けば、鈴木正弘先生と話ができて、成績が悪い時でも、いつも褒めてくださった。先生方はみんな若く、本当に澁刺としていた。鈴木先生の桑雨居雑記に「子どもに学び、子どもを信じ、子ども



に捧げる。教育は、ほめて、ほめて、ほめ続けて、果たすべきもの」とある。ほめれば、豚も木に登る。私は、未だに、木に登り切つてはいないが、鈴木正弘先生や当時の先生方に心より深く感謝したいと思う。

(しまづ たつお)

教育随想



令和7年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
社会福祉法人米山寮
理事長 島津 達雄 氏
- この人に聞く…………… 2
社会保険労務士
西本 梓 氏
- 羅針盤…………… 2
福岡中学校
校長 森 竜師
- ふれあい…………… 3
山中小学校
教諭 栗原えりな
- 特集…………… 4
新任教師 大いに語る
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー…………… 8
中庭に自然空間(平成15年)
- この本を…………… 8



多様な子供たちに寄り添うために

社会保険労務士 西本 梓氏

西本さんは、社会保険労務士として業務を行いつつ、岡崎市民活動団体イリゼの代表として、またトランスジェンダーの当事者として似た悩みをもつ方々の支援に力を注いでいる。そんな西本さんに、教師が多様な子供たちに寄り添うために必要な配慮や姿勢について伺った。

— 性別への違和感を抱き始めたのは、いつ頃だったのでしょうか —

小学校低学年の頃から、自分が他の子とは違うと感じ始めました。でも、その感覚を言ったら嫌われてしまう気がして、誰にも言えませんでした。また、小学生の頃、担任の先生に「女の子らしくしなさい」とクラスの前で叱られたことがありました。女の子らしくさして何だろう、という疑問が私の中にずっとあり、

周囲からの決めつけに強い違和感を抱いていました。中学二年生のときにTVドラマで「性同一性障害」という言葉を知りました。自分と同じような疑問をもつ人が他にもいると初めて気付いて少し救われた思いがしました。それでも当時は自分のことを口にする勇氣はなく、心の中で抱えていました。

— ご自身が変わるきっかけやその支えとなった人を教えてください —

— 中学までは、自分のことをひたすら隠し、どんなに辛くても耐え、何事も簡単に諦めていました。しかし、社会人になったとき、辛さや諦めることに「慣れてしまっている自分」に気付いたのです。それからは、困難を避けるのではなく、自身のセクシュアリティを安心して打ち明けられる友人と一緒に困難に向き合い、気持ち共有するようになりました。その友人は、性自認に関わりなく、一人の人間として私と接してくれています。特別な出来事はありませんが、そうした友人たちとの日常が、私にとって大きな力になっています。— 教師が配慮すべき点としてどのようなことがありますか —

多様性を尊重し、個人の価値観を押し付けないことが第一だと思います。また、教師間でもセクシュアルマイノリティの子供の情報を軽率に共有しないことが大切です。プライ

バシーが守られないと、誰がどこまで自分のことを知っているのだろうと子供が不安に苛まれてしまいます。本人の同意なしに情報を広める「アウティング」の危険性を理解し、情報共有をする際には、事前に本人に確認をするなど、十分に気をつけてほしいと思います。

— 学校の先生方に特に伝えたいことはありますか —

二つあります。一つ目は、「アライ（LGBT）」、つまりセクシュアルマイノリティの理解者となる先生の存在が重要だということです。例えば、六色あるレインボーカラーのグッズを身に付けて「自分は理解者である」と表明したり、いろいろな性の在り方について子供にしっかり説明したりできる先生が増えてくれたら嬉しく思います。

もう一つは、子供たちが多様な先生の選択肢に気付ける支援が大切だということです。先生方が、様々な価値観や生き方を伝えてくれることで、子供たちが「こういう生き方もあるんだ」と気付くきっかけになってくれたらと思っています。



氏名 西本 梓
にしもと あずさ
生年月日 昭和六十一年
三月二十六日
住所 岡崎市

創発の時代に

福岡中学校

校長 森 竜師



情報化の激流。ICTの加速度的な進化による、スマートフォンの普及による、スマートフォンの普及による、大人はもちろんのこと、子供たちのライフスタイルまでも変えてしまった。

本校の本年度の生活実態調査では、自分専用の情報端末を所持する子供は91%。自宅で三時間以上にわたり動画の視聴やオンラインゲーム等に没頭している子供は、47%に上る。情報端末内で、娯楽とコミュニケーションがループする世界に終わりはない。自己制御が未熟な子供たちは、依存の沼に落ちていく。

発信と受信が一方向で明確なメッセージ。それに対して、不特定多数が受信するソーシャルメディアには、ニセ情報、誤情報、そして悪意のある情報が溢れている。多角的な思考が未熟な子供たちは、フィルターバブ



「ともに歩む」

山中小学校

教諭 栗原 えりな

天真爛漫という言葉がびつたりのAさんは、友達に「こうした方がいいよ」と、積極的に自分の考えを伝えることができる。そんなAさんがしばしば、友達との関わりで涙を流すことがあった。それは、Aさんが、「自分はこうしたい」と一度決めたら、なかなか他者の意見を受け入れられず意見がぶつかってしまふときだった。

ある日の体育の授業、チームでの作戦会議中にAさんは泣いていた。「どうしたかったの」と声をかけると、Aさんは、「本当は、分かっているんだけど、でも私も…」と答えた。その言葉から、Aさんは、自分のとるべき行動を本当は分かっているのではないか、心と行動が思うように一致しないもどかしさを感じているのではないかと感じた。私は、

「きつと友達もあなたの気持ち分かっているよ。だから、あなたもきちんと言葉を受け止めて、相手をよく見てごらん。」と伝えた。

授業でチーム学習をする際、互いの意見に耳を傾けることを意識できるように、「かかわりタイム」を設けた。そして、友達の良いところを見つけられるよう、たたええ合う時間も意図的に設けた。次第にAさんは、「私はこう思う。〇〇さんはどう」と、自分の思いを伝えた後、相手の思いを聞くことが増え、相手の考えを聞くことのよさを感じ始めていくようになった。

二学期に入り、学級のさらなる成長を目指して、学級会でめあてを決めたときだった。Aさんが唐突に、「ねえ、先生が思う最高のクラスって何。」と尋ねてきた。私は、

「自分たちで話し合っって困難を乗り越えていくクラスかな。」と答えた。それを聞き、Aさんは、「分かった。」

と言って、元氣よく走り去っていった。数日後の校外学習の帰り道、Aさんは、チームの子と言い合いになり泣いていた。自分の思いが通らなかったことが悔しかったようだった。声をかけても話すこともままならな

いAさん。子供たちの間に入って話をした方がいいかと思っただ、これまでのAさんの様子からじつと見守ることにした。友達の「Aさんはどうしたかったの」との言葉に、途切れ途切れではあるが、言葉を紡ぎ「勝手に決めてごめんね」と伝えたあと自分の思いを話していた。そして、「分かっているよ。でもね…」と気持ちを話すチームの子をしつかりと見て、相手の言葉に耳を傾け、受け止めていた。私はその姿を見て、Aさんの成長を感じた。

しばらくして、私の元に駆け寄ってきたAさん。「先生、解決できたよ」と話す声は弾んでいた。自分の思いを伝え、相手を思い、互いにとつてよい方法を見つけることができたAさん。その表情は、とても晴れやかだった。



ルによって多様な価値観から隔離され、エコーチェンバーによって特定の価値観だけを増幅させていく。

生成AIが誕生し、今この瞬間も進化を続けている。様々な分野への応用が期待される反面、ディープフェイク画像や動画を誰でも容易に作成できるようになった。規制が甘いネットの世界で、好奇心旺盛な子供は、意図せずフェイクの創造と発信の加害者となる。そして、画像や動画を拡散された被害者の子供には、取返しのないデジタルタトゥーが残る。

気付けば、リアルな会話よりも画面を見つめることを優先し、コロナ禍のニセ情報、災害時のフェイク画像、闇バイトの誘いに振り回される今の社会。学校は、加速する技術革新の変化に追い付けず、教師より先に進む子供たちの、後手の指導に追われている。

情報モラルの根幹は、これまで私たちが教育活動全般で取り組んできた道徳教育の延長上にある。また、メディアリテラシーの中核となるクリティカル・シンキングは、これまで各教科で扱ってきた、子供に身に付けさせたい力の一つに他ならない。

創発が加速する予測困難な時代。今こそ、普遍的な教育の本質に立ち返り、個々の学びの質を高める必要がある。



新任教師 大いに語る

本年度、岡崎市に赴任した教員一年目の先生方に、教師として歩み始めたこれまでの日々を振り返り、感じたことや考えたことを大いに語ってもらった。先輩教師に支えられ、日々奮闘する様子を伺うことができた。

Q 子供たちとの関わりで、うれしかったことを教えてください。

A 「なるほど」とか「分かった」という顔がとても印象に残っています。そういった顔が見られるのはとてもうれしいことですし、教員にならないと経験できないことだと思っています。そういった顔をもちと見られるように、授業力を向上させていきたいと思っています。

B 子供が好き

で教師になったので、朝、教室に行くと、子供たちと一緒に話すことがとてもうれしいです。また、四月、五月は、教室がざわざわしていることが多かったのですが、今ではクラスの子供たちが「静かにするよ」「前を見るよ」と互いに声をかけています。そんな子供たちの成長がうれしいなと感じます。



C 学芸会の指導では、子供同士で

相談する場を用意して、子供たちと一緒につくり上げることを大切にしました。学芸会当日、教室に戻ってきた子供たちが「諦めないでやってきてよかった」と言っていたのがとてもうれしくて、「自分たちでつくり上げた劇だね」と声をかけました。自信をもてたようで、とてもうれしかったです。

E 合唱コンクールでの関わりの中

でうれしかったことがありました。私のクラスは歌が苦手だったり、恥ずかしいかと思っていたりする子が多かったのですが、賞がとれなくても、合唱コンクールをやってよかったなという思いをもつてほしくて、子供たちと一緒に頑張ってきました。合唱コンクール当日の帰りの会で、これまでのことを振り返り、思いを伝えました。すると半数以上が一緒に泣いてくれて、子供たちが同じ気持ちでいてくれたことがうれしかったです。帰りの会の後で、みんなが泣きながら歌ってくれたことが忘れられません。



Q 教師になって大切にしていることを教えてください。

F 一人一人の声に耳を傾けることを大切にしています。また、話をするときには、必ず目を見て話すことを心がけています。

G 笑顔で子供たちを迎え入れることに力を入れています。私が明るく笑顔で授業をしていると、子供たちも楽しそうに授業に臨んでいます。できていることを褒めていくことを心掛けています。

A 主体的に行動

していく姿勢を大切にしています。行事では、子供にやらせるといよりは、子供に寄り添い、見守ることで、

子供たちが自分たちでどんどん進めていくという姿がありました。

D 授業です。授業が終わるときに、

子供が「もうちょっとやりたいな」とつぶやいていたことがありました。それがうれしくて、子供自身が学びたいと思えるような手だてを考えることが楽しいです。四十五分があつという間だったという授業を目指しています。また、人間性や、協調性を育むことを、授業の中でやれるようにしたいと思っています。チーム学習を大切にし、発表している人に体を向けたりするなど、関わり合いを増やし、授業を中心に据えた学級経営を心掛けています。



▲授業の様子

Q 岡崎市ならではの取り組みがあります。そのよさを実感した出来事を教えてください。

C チーム学習によって子供たちが気軽に仲間に相談できて、とてもいいなと思っています。実際に算数の授業で、苦手な子が分からないとつぶやくと、チームの子と一緒にタブレットを使って考えました。最後には自分の力で解けるようになり、チームのみんながハイタッチできました。クラスの中の結び付きも強めてくれるので、とてもいい取り組みだと思います。



E 私のクラスには、一学期のころから教室に入れなくなってしまう子がいました。その子にF組を紹介すると、朝も自分で登校できるようになりました。笑顔が増えて、自分から勉強するようになりまりました。F組があることによつて、本人が前向きに学校生活を送れています。本人によつて一つの居場所ができ、本当によかったと感じました。

B 造形おかげさきっ子展がとても印象に残っています。学校単位ではなく、市全体でつくり上げるよさを感じています。自分自身も、

他の学校の作品を見ることができ、勉強になりました。小学校から中学校まで同じ場所に作品が展示されていて、その雰囲気も素敵だなと感じました。

F 岡崎市独自の教材で学べるところです。小学校の社会で郷土読本「おかげさき」を使って学ぶことができ、子供が「これ見たことある」など、社会科の学習に入りやすいと感じています。自分も岡崎市出身で、浄水場や中央クリーンセンターなどの学びはよく覚えています。徳川家康の歴史も重点的に学べるのが郷土愛につながっていると思います。



▲電子黒板・タブレットを活用した授業

Q 先輩の先生に支えられたと実感した出来事を教えてください。

E 合唱コンクールのときに指導法はもちろん、学級をどのようにまとめていくかなど、コンクールまでの過程をプリントにまとめて示してくださった先生がいます。親身になってくださったことが、今でも支えになっています。

G 学級の子供を丁寧支援していくために、前年度の担任の先生に相談したところ、先生役と子供役に分かれて、いろいろなケースを想定して声掛けの仕方を細かく教えていただきました。そのおかげで、子供に積極的に声かけすることができるようになりました。



Q 今後、教師として挑戦したいことはありますか。

B 学級の児童全員と一日の中で話をすることを続け、一人一人をよく見て褒めていくことを心掛けていきたいです。

C 教育研究論文を書き上げて、自分の授業を振り返って、さらに力量を高めていきたいと思っています。

D 私も授業研究を頑張りたいと思います。

今年度の三校の研究会をはじめとして、多くの授業を参観させてもらいました。自分もそういう授業がしたいと思いますし、うまく授業ができたときの子供の表情が忘れられないので、今後も挑戦していきたいです。

A 教師が進めるのではなくて、授業も行事も子供たちの意見を取り入れていきたいです。子供たちが前に出る場面を多く設定できるように日々意識して取り組んでいきたいと思っています。



- 期日 令和六年十一月十九日(火)
- 会場 総合学習センター
- 司会 鈴木紀予子(下山小学校長)
- 出席 石田 聖来(梅園小学校)
- 大高 稜央(連尺小学校)
- 松下 望羽(藤川小学校)
- 澤 一生(大樹寺小学校)
- 島田 晴亘(六ツ美南部小学校)
- 壁谷 美波(矢作北中学校)
- 増田 智(北中学校)



●岡崎教師塾「允文館」第十七期生募集

対象 大学2・3年生(令和七年度)または、令和八年度「教

員採用試験」を受験する者

開催時期 (年間十二回)

令和七年十月から令和八年七月

所 岡崎市総合学習センター

および市内小中学校(学校現場実習)

募集人数 五十名程度

※書類審査あり

内容 講義と現場実習

受講料 一万円(資料・講師

料等含む)(大学三年次一次合格者は、受講料を半額免除する)

募集期間

一次締切・令和七年二月から令和七年八月下旬

応募方法 『入塾申込用紙』

に必要事項を記入し、(写真貼付)、募集期間内に「允文館」

事務局に持参する。(電話での

訪問連絡必要)

問い合わせ 岡崎市総合学習

センター 教育研究所

岡崎教師塾「允文館」事務局

電話 0564-8317770

FAX 0564-8317771



●第68回岡崎市小中学校書き初め展

令和七年一月十八日(土)

十九日(日)に、岡崎市美術館にて、第68回岡崎市小中学校書き初め展が開催された。

市内小中学校及び聾学校、

愛知教育大学附属学校から、

選ばれた力作揃いの展示となった。各学級二点ずつ選ば

れる小学校一・二年生の硬筆

作品と小学校三年生から中学

校三年生の毛筆作品に加え、

「硬筆作品の部」として、各学年一点の代表作品、総数二千百十五点の作品展が展示された。

会期中の二日間共に天気にも恵まれ、六千七百五十九人も

の来客者があった。自分の作

品をおじいちゃんやおばあ

ちゃんに紹介する小学生の姿

や、素晴らしい出来栄の作

品に足を留め、感心しながら

鑑賞する家族連れの姿などが

あった。展示された代表作品

は、文集「おかさき」に掲載

される。



●第76回岡崎市市民駅伝競走大会の結果について

令和七年一月十九日(日)晴天

の下、岡崎市市民駅伝が開催された。コースとなった沿道に

は、応援に訪れた多くの人々が、今か今かと選手を待つ姿があった。各校の代表として

懸命に走る中学生たちが通ると、ひと際大きな声援が響いた。結果は次の通り。

○中学校男子の部

一位 南中学校 A

二位 六ツ美北中学校 A

三位 新香山中学校

○中学校女子の部

一位 新香山中学校

二位 矢作北中学校 A

三位 六ツ美北中学校 A

●第60回岡崎市小中学校読書感想文・感想画コンクール表彰式

時 令和七年一月二十四日(金)十六時から

所 岡崎市総合学習センター

各学校で取り組まれた読書

感想文一万二千七百五十五

点・感想画一万七千二百六十

点の中から選ばれた優秀作品

について表彰が行われた。表彰式に参加したのは、読書感

想文で市長賞を受賞した岡本

泰壮さん(本宿小2年) 河合

玲奈さん(緑丘小4年) 賀来

彩乃さん(常盤中3年)、市議

会議長賞を受賞した伴悠汰さ

ん(矢南小3年) 高島悠生さん(岡崎小5年) 奥田心彩さん(城北中2年)、そして、

読書感想文・感想画で教育委員

会賞を受賞した二十二名を

代表して、海藤凛さん(竜南

中3年)である。また、読書

感想画で岡崎南ライオンズク

ラブ会長賞を受賞した金田

那さん(大樹寺小2年)、杉

山凛さん(広幡小6年)、高

木詩南さん(美川中3年)が

参加した。当日は、河合玲奈

さんが読書感想文を朗読し、

杉山凛さんが読書感想画を披

露し、作品に込める思いを説

明した。



◆募集

○「幼保小の連携」冊子 実践記録の募集

令和六年度岡崎市幼保小連絡協議会は「幼保小の連携」冊子を作成し、各校、各園一冊配付しています。幼稚園や保育園、子ども園の実践や小学校低学年の実践を掲載しており、互いの教育活動についての理解を図る一助となることを目的としています。

岡崎市幼保小連絡協議会では、小学校低学年の実践を募集しています。幼保小の交流や生活科の活動についてまとめ、ぜひお寄せください。
 期日 令和七年二月十七日(月)ごろまで
 書式 A4一ページ分
 詳しくは一月十七日付掲示板でお知らせしております。
 提出先 OKサインメッセー ジ 大本満子 まで



●表彰

◆第43回愛知県中学生バレーボール新人大会

男子の部
 1位 矢北中

◆2024愛知陸協駅伝競走大会

中学男子の部
 1位 六ツ美北中
 2位 矢作北中
 3位 新香山中

男子区間賞

第1区 竜海中 判治 直哉
 第2区 六ツ美北中 吉本 健心
 第4区 六ツ美北中 境 阜我

女子区間賞

第3区 新香山中 椿原 莉央
 ◆第17回東海・北陸地区中学生創造ものづくり教育フェア
 第22回創造アイデアロボットコンテスト東海・北陸大会

計測・制御部門

5位 福岡中 梅村 明煌
 垣花 竜翔

6位 福岡中

飯島章之亮
 長谷部裕來
 樋口琥央真
 津田 直樹
 廣岡 靖真
 大石 新

◆第6回全国子ども防災作文コンクール

審査員特別賞
 常磐中 三方 美空
 優秀賞
 常磐中 中根 寛治
 優秀学校賞
 常磐中 常磐中

◆第49回ゆうちょうアイデア貯金箱コンクール

小学校3年生の部
 すすきなデザイン・アイデア賞
 緑丘小 細野陽菜乃
 ○小学校4年生の部
 すてきなデザイン・アイデア賞
 緑丘小 志賀 丞
 大門小 峯澤 海成

◆第11回全国小学校ラジオ体操コンクール

ルーキー賞
 男川小

◆第20回人と自然にやさしいまちデザインコンテスト
 愛知県教育委員会賞
 常磐小 前川ひな乃

事務所協会賞
 廣幡小 大須賀 葵

◆税に関する作品

習字の部
 名古屋国税局長賞
 三島小 判治 里紗

◆第65回小学校作文コンクール

特選 CBCラジオ賞
 小豆坂小 増永 奨
 ◆令和6年度土砂災害防止に関する作文コンクール
 佳作 美川中 早川 涼

◆愛知県防火作品展

小学校5年ポスターの部
 特選 県知事賞
 小豆坂小 増永 奨

◆愛知県関税会連合会「税の標語」
 愛知県関税会連合会長賞
 常磐小 生駒 大凱



教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

福
岡
中
杉
崎
秀
夫

中庭に自然空間 (平成15年)

写真提供：六ツ美西部小学校

「多様な生物が集まる環境を」との願いを実現した自然観察園、通称「自然ランド」。思い思いに観察する子供を温かく見守る保護者。授業参観日の様子である。

自然観察園の水路や池の造成、植樹などのすべては、教師や子供、地域の人々による手作業であった。完成後、全校で生物や植物の観察に取り組み、ホタルの養殖に挑戦するなど、自然環境について体験的に学ぶ場となった。現在は、植物中心の観察場と姿を変え、存続する。

実際に見たり、触ったりすることでしか得られない感動、発見に子供の心は踊る。いつの時代も実物を肌で感じる体験を大事にした学びを進めたい。



トランスジェンダーについて語る西本氏の言葉には、多様性を尊重してほしいという教育現場へのメッセージが込められていた。子供たちにとって学校で過ごす時間は、その後の生き方を支える極めて重要なものである。西本氏からの言葉を胸に、これからも多様な子供たちが自分らしく学べる環境づくりに取り組んでいきたい。

どホ

如目ツ



▲幼保小交流会(男川小)

冷たい風が吹き、もうすぐ立春と言えど、まだ寒さが残る校庭。ふと梅の木に目をやると、蕾が膨らんでいた。冷たい冬をじつと耐え、春に向けて花を咲かせる準備をしている。

子供たちも一人一人、様々な壁を乗り越えていく。経験という根を伸ばし、それぞれの花が咲き誇る春を待ち遠しく思う。



*「叱れば人は育つ」は幻想 村中 直人
PHP新書 ¥1,130

心に残った一文
叱ることの効果は「目の前の行動を変えられる」ことだけなのです。

筆者は叱ることについて、「その後の行動を変えさせるような学びの効果はきわめて薄い」と述べる。そして、即座にやめさせるべき行為に対して叱る場合は、それが止まれば速やかに叱るのをやめなければならず、その先の叱責は、単に叱る側の欲求充足に過ぎないと指摘する。

日々様々な場面に遭遇し、その都度どう指導すべきか迷い悩む私たちに、脳科学の見地や著名人との対談を通して、「幻想」からの脱却へと導いてくれる。

本書が広く読まれることで、学校に笑顔が増えるのではないだろうか。

*メンターになる人、老害になる人 前田康二郎
クロスメディア パブリッシング ¥1,580

*子供たちの未来を拓くちょっといい授業
水野 正司・塩谷 直大
学芸みらい社 ¥2,500

*35年目のラブレター 小倉 孝保
講談社 ¥1,800
細川小学校 石川 恒彦